国文学研究資料館 2022

National Institute of Japanese Literature

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
National Institutes for the Humanities

Contents

はじめに 3
概要 4
研究概要 6
データ駆動による課題解決型人文学の創成 8
日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画 10
公開データベース 15
事業概要 16
教員一覧 24
若手研究者支援 26
大学院教育 27
参考データ 28
人間文化研究機構 30

はじめに

国文学研究資料館
館長　渡部　泰明

© えくてびあん

ようこそ、国文学研究資料館へ。

当館は1972年に創設され、今年で設立50周年を迎えます。半世紀もの間、日本文学および関連領域の研究に寄与してきたことになります。国文学研究資料館が、準備期間を経て閲覧サービスを開始したのは、1977年の7月でした。個人的な記憶を掘り起こせば、その翌年大学の国文学科に進学した私は、先輩に促されるままに、当時戸越（東京都品川区）の地にあった当館を訪れ、手に入れるのに四苦八苦していた文献や資料を苦もなく閲覧することができ、しかも複写までしてもらえることに驚いたものでした。爾来四十余年、国文学研究資料館の提供する資料の範囲は飛躍的に拡大し、サービスの質も格段に向上しました。各種データベースの充実ぶりにも目を瞠るものがあります。新型コロナウィルスが私たちの生活を脅かし、調査や資料収集に大きな制限が加わった現今の状況の中で、これら各種のデータベースがどれほど有効性を発揮したかは、よくご存じのことと思います。

こうしたデータベースの中でも、とくに「新日本古典籍総合データベース」は柱となるものです。当館が中心となって2014年度より推進している「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」（歴史的典籍NW事業）によって生み出されました。本計画は、国内外の研究機関と連携しつつ30万点の画像データの作成を目指し、それとともに国際共同研究を推進しています。さらに、本事業の後継計画である「データ駆動による課題解決型人文学の創成」事業も、文部科学省のロードマップ2020に採択されています。また、古典籍データ駆動研究センターを新設し、新たな取り組みを開始いたしました。蓄積してきた膨大なデータを、どう活用していったらよいのか、その道筋を示していきたいと思っています。そのために、理系をも含めた異分野とも協力し合って国際展開する事業を進めています。国内・国外を問わぬ研究者どうしのネットワークを形成し共同研究を進めていくのも、私たちの大きな仕事となっています。

もとよりどのような情報であれ、使うのは人間であり、それを咀嚼し、自らの知性の糧とするのも私たちです。宝の持ち腐れでは意味はありません。人文学に何が出来るのか、今強く問われています。だからこそ、私たちの発言や行動が必要になっている、と思っています。情報の海に溺れないためにはどうしたらよいか、多様な価値観の中でどこを向いて進んだらよいのか、そもそもそれを教えてくれるのが古典だからです。いまだ知られていない古い資料・文献を発掘し、誰でも読み解けるように提供したうえで現代に甦らせ、その価値を共有しうるよう示していく。古典籍に関わる者に課せられたその使命を、私たちは先頭を切って果たしていきたいと願っています。

概　要

国文学研究資料館のめざすもの

国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとするさまざまな分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。創設以来50年にわたって培ってきた日本の古典籍に関する資料研究の蓄積を活かし、国内外の研究機関・研究者と連携し、日本の古典籍を豊かな知的資源として活用する、分野を横断した研究の創出に取り組みます。

沿　革

1966年12月	日本学術会議が「国語・国文学研究資料センター（仮称）」の設置を政府に勧告
1970年 9月	学術審議会が「国文学研究資料センター（仮称）」の緊急設置を文部大臣に報告
1971年 4月	文部省に、国文学研究資料の施設の整備に関する調査等の経費計上
1972年 5月	国文学研究資料館創設（管理部、文献資料部、研究情報部） 文部省史料館（1951年設置）が、国文学研究資料館の組織に組み入れられる
1977年 6月	開館式挙行
7月	閲覧サービス開始
1979年 4月	整理閲覧部設置
1987年 4月	マイクロ資料目録及び当館蔵和古書目録データベースのオンライン検索サービス開始
1992年 4月	国文学論文目録データベースのオンライン検索サービス開始
2002年11月	創立30周年記念式典挙行
2003年 4月	総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻が設置され、基盤機関となる
2004年 4月	大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館となる 法人化に伴い、館内組織を改組
2008年 3月	立川市緑町の現在地に移転
2013年 4月	古典籍データベース研究事業センター設置
2014年 4月	古典籍データベース研究事業センターを古典籍共同研究事業センターに改組
2019年 2月	多摩学術文化プラットフォーム「ぷらっとこくぶんけん」設立
2020年11月	日本古典籍研究国際コンソーシアム設立
2022年 4月	古典籍データ駆動研究センター設立
2022年 5月	創立50周年記念式典挙行

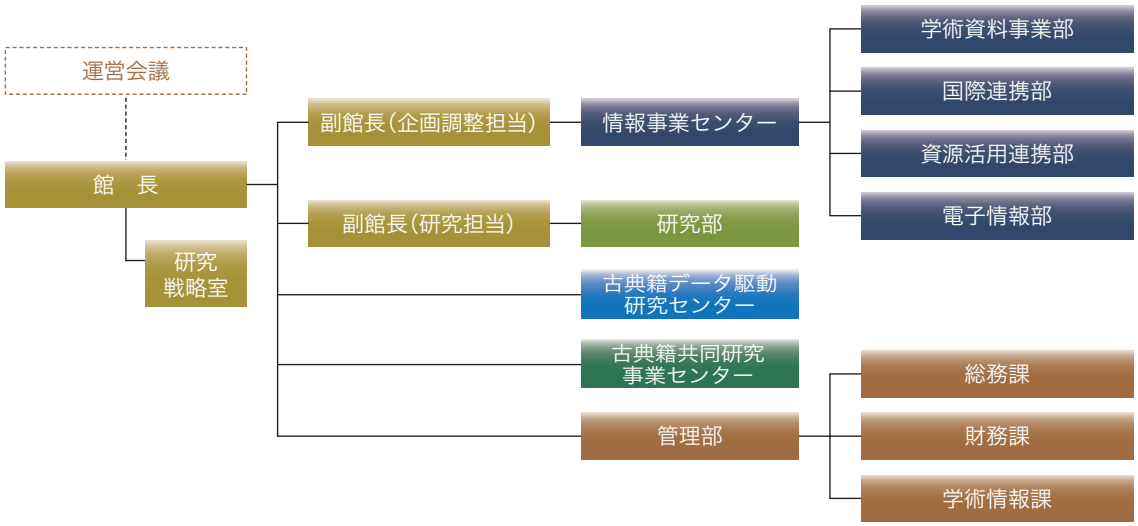
施設について

当館は、東京都区部の過密解消や、東京への諸機能の過度の集中の抑制などのために、1989年8月及び1993年6月の「国の機関等移転推進連絡会議」において移転が決定し、2008年3月に品川区から立川市に移転しました。

施設は、バリアフリー対応とし、来館者の利便性を考慮した設計となっています。

来館者が利用するスペースとして閲覧室と展示室があります。閲覧室は参考図書をすべて開架にしており、広々としたスペースでゆったりと閲覧ができます。また、展示室では当館所蔵の古典籍による通常展示等を行います。

組織図



運営会議

館外委員

安藤　　宏	東京大学大学院人文社会系研究科教授
大隅　典子	東北大学副学長・附属図書館長
大谷　節子	成城大学大学院文学研究科教授
川平　敏文	九州大学人文科学研究院教授
久富木原玲	愛知県立大学長
倉員　正江	日本大学生物資源科学部教授
佐々木孝浩	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫長
高田　祐彦	青山学院大学文学部教授
高埜　利彦	学習院大学名誉教授
張　　龍妹	北京外国語大学北京日本学研究センター教授
山地　一禎	情報・システム研究機構国立情報学研究所 コンテンツ科学研究系教授
山本　聡美	早稲田大学文学学術院教授
ロバート ヒューイ	ハワイ大学マノア校名誉教授

館内委員

入口　敦志	副館長(企画調整担当)
海野　圭介	研究部教授(研究主幹)
大山　敬三	客員教授
落合　博志	研究部教授(研究主幹)
神作　研一	副館長(研究担当)
齋藤真麻理	研究部教授
西村慎太郎	研究部教授(研究主幹)
藤實久美子	研究部教授(研究主幹)
山本　和明	研究部教授(研究主幹)

役職員

館　長	渡部　泰明
副館長(企画調整担当)	入口　敦志
副館長(研究担当)	神作　研一

研究部

研究主幹	海野　圭介
研究主幹	落合　博志
研究主幹	西村慎太郎
研究主幹	藤實久美子
研究主幹	山本　和明

情報事業センター

情報事業センター長(併任)	入口　敦志
学術資料事業部長(併任)	海野　圭介
国際連携部長(併任)	藤實久美子
資源活用連携部長(併任)	西村慎太郎
電子情報部長(併任)	落合　博志

総合研究大学院大学文化科学研究科

日本文学研究専攻長	齋藤真麻理

古典籍データ駆動研究センター

センター長(併任)	大山　敬三

古典籍共同研究事業センター

センター長(併任)	山本　和明
事務室長(併任)	河野　　浩

管理部

管理部長	島崎　正弘
主幹	河野　　浩
総務課長	杁山　広樹
財務課長	進藤　　光
学術情報課長	片岡　　真

研究概要

50年に及ぶ調査収集事業と、2014年度より開始された大規模学術フロンティア促進事業（日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画）等で集積してきた日本文学とその関連領域の各種資料（古典籍・デジタルデータ・マイクロフィルム・紙焼写真など）を主たる研究資源として、多様な日本文学研究のいっそうの推進と発展のために、以下の共同研究を実施しています。

共同研究は大学共同利用機関の根幹をなす最も重要なものであり、公募要領の策定、審議採択、そして進捗管理を、共同研究委員会（外部委員８名および館内教員６名の都合14名によって構成）が担当しています。

法人第４期の初年度に当たる2022年度には新たに、「特定研究」のもとに３種（「近代」「地域資料」「国際」）計７件の共同研究を立て、これまで以上の充実を図ります。

公募・非公募を問わず、いずれの共同研究においても、研究組織における若手研究者比率に留意し、共同研究を展開してゆく中で次世代の研究者を育成することにも配慮します。また、館外者が研究代表者を務める共同研究には必ず「館内担当者」を宛て、共同研究がスムーズに進行するようサポートしています。

基幹研究

「基幹研究」は、日本文学とその関連領域の基礎基盤となる共同研究です。館内教員が研究代表者を務め、非公募で研究分担者を組織しています。

- **十九世紀地域文化拠点の総合的研究　―廣瀬家を中心として―**　（2019年度～2023年度）
  研究代表者：入口 敦志（いりぐち・あつし）　国文学研究資料館教授
- **アーカイブズ社会の基盤創発に関する基礎的研究**　（2022年度～2027年度）
  研究代表者：太田　尚宏（おおた・なおひろ）　国文学研究資料館准教授
- **日本語の歴史的典籍データベースの検索に関する総合的研究**　（2015年度～2023年度）
  研究代表者：相田　満（あいだ・みつる）　国文学研究資料館准教授
- **国文学研究資料館所蔵貴重書の基礎的研究**　（2022年度～2027年度）
  研究代表者：落合　博志（おちあい・ひろし）　国文学研究資料館教授

特定研究

「特定研究」は、個別特定の研究課題に取り組む共同研究です。

一　般

当館が集積してきた各種資料（古典籍・デジタルデータ・マイクロフィルム・紙焼写真など）を主たる研究資源として推進する共同研究です。公募。

- **国文学研究資料館所蔵マイクロ・デジタル資料を利用した古活字版総合目録作成の試み**　（2021年度～2023年度）
  研究代表者：高木　浩明（たかぎ・ひろあき）　近畿大学非常勤講師
- **『狭衣物語』を中心とする中古物語鎌倉期本文の研究と資料整備**　（2021年度～2023年度）
  研究代表者：松本　大（まつもと・おおき）　関西大学准教授
- **和漢比較文学研究の形成・展開と依拠本文の変容との相関性についての基礎的研究**　（2022年度～2024年度）
  研究代表者：笹川　勲（ささがわ・いさお）　國學院大學非常勤講師

課　題

当館が所蔵する特定のコレクション(寄託資料を含む)のもとに、個別研究を行う研究分担者を公募し、個々人がその交流を通してさまざまな知見を獲得するとともに、関係文献の解題作成と公開を研究成果の一つとする共同研究です(研究代表者は初回の共同研究会において互選により決定)。

●上野学園大学日本音楽史研究所寄託資料の基礎的研究　(2020年度～2022年度)
研究代表者：神田　邦彦（かんだ・くにひこ）　花園大学専任講師

●国文学研究資料館松野陽一文庫の基礎的研究　(2022年度～2024年度)
研究代表者：舘野　文昭（たての・ふみあき）　埼玉大学大学院准教授

近　代

近代文学に関する共同研究です。館内教員が研究代表者を務め、非公募で研究分担者を組織しています。

●近代文学における文例集・実作・文学読者層の相関の研究　(2022年度～2024年度)
研究代表者：多田　蔵人（ただ・くらひと）　国文学研究資料館准教授

地域資料

全国にわたる当館の調査収集先の中から5か所を選定し、当該文庫に精通した研究代表者が、調査収集事業を担ってきた各地域の地域資料専門部会委員(旧国文学文献資料調査員)を中心に非公募で研究分担者を組織して行う共同研究です。研究資源の重要性を各地域でも共有していただくために、毎年度「◯◯文庫セミナー」を開催することを要件としています。

●東北大学狩野文庫の研究　(2022年度～2024年度)
研究代表者：佐倉　由泰（さくら・よしやす）　東北大学大学院教授

●京都市歴史資料館寄託山本家所蔵資料など賀茂両社および社家伝来の古典籍資料に関する研究
研究代表者：小林　一彦（こばやし・かずひこ）　京都産業大学教授　(2022年度～2024年度)

●相愛大学「春曙文庫」に関する研究―書物と人　(2022年度～2024年度)
研究代表者：千葉　真也（ちば・しんや）　相愛大学教授

●正宗文庫の研究　(2022年度～2024年度)
研究代表者：川崎　剛志（かわさき・つよし）　就実大学教授

●中川文庫(祐徳稲荷神社)の総合的研究　(2022年度～2024年度)
研究代表者：村上　義明（むらかみ・よしあき）　熊本学園大学准教授

国　際

在外古典籍の調査研究とともに、それに基づいた国際共同研究を進めます。館内教員が研究代表者を務め、非公募で研究分担者を組織しています(研究組織における在外研究者比率にも留意)。

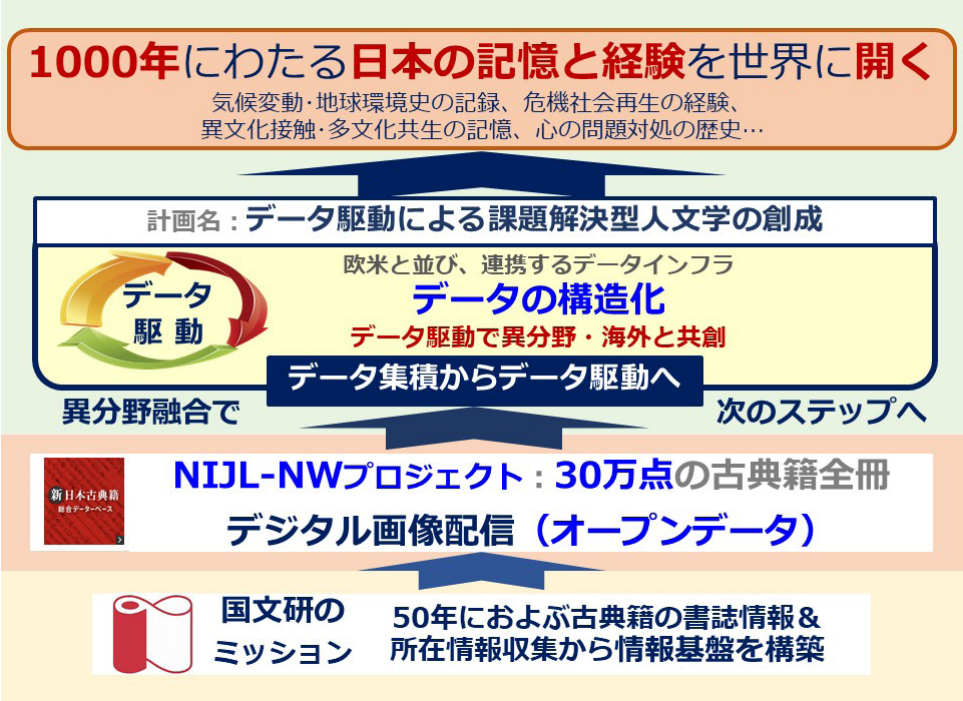
●ハワイ大学ならびにホノルル美術館所蔵古典籍の調査研究　(2022年度～2024年度)
研究代表者：神作　研一（かんさく・けんいち）　国文学研究資料館教授

データ駆動による課題解決型人文学の創成

歴史的典籍データを機械可読型に整備し、自然科学・社会科学分野といった他分野の研究者との共同研究の成果をもデータインフラストラクチャーに蓄積してゆく循環型の仕組みを構築し、人文科学の研究者が多分野と協働して現代社会の様々な課題の解決に寄与する課題解決型の人文学の創成を目指して、古典籍データ駆動研究センターを設置しています。

また、現在進行中の大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」の後継として、人文学の分野に閉じられていた歴史的典籍に記録された情報やそのマテリアル情報等を広く自然科学、社会科学の研究者にも開き、歴史的典籍を軸とするデータ駆動型の人文学の研究環境を整備・運営してゆく計画を立案しています。

計画の概要



日本語の歴史的典籍のデータ駆動の意義

日本に現存する最古の歴史書である『古事記』は、今からさかのぼること1300年。1000年以上の連続性をもって、単一の国に書冊が残存するということは、世界的に見ても稀な事象といえます。書物に記されている歴史的データには、気候変動や災害を含む地球環境史の記憶から、多文化共生への知恵、心の問題への対処のあり方、危機に直面した社会の再生記録など、人間社会の形成に関わるさまざまな記録が含まれています。

しかし、和紙という媒体特性のため図書館や研究機関の中に保管され、各分野の専門研究者以外の目に触れる機会は少なく、そこに記録された情報の包括的な利用や分析は困難でした。

そこで、これまで目に触れる機会の少なかった日本の書物に蓄積されている膨大な情報をデータ化し、異分野の研究者はもちろん、国内外の誰もが必要な情報を速やかに取り出すことができ、利用できる環境の構築を目指して進められてきたのが歴史的典籍NW事業です。歴史的典籍NW事業によって、30万点に及ぶ日本語の歴史的典籍の全冊画像を、Web環境さえあればオープンデータとして利用できる環境が整備されつつあります。

本計画では、30万点の全冊画像データの構築を基盤に、さらにデータ集積の範囲を明治時代にまで拡張。国立国会図書館で公開されている近代書籍データと連結することで、1000年に及ぶ通時的なデータにし、機械可読型に整備して自然科学・社会科学分野といった他分野の研究者への利活用を進めていきます。そして、他分野の研究者と人文学研究者との共同研究成果についてもデータとして蓄積し、研究成果を循環させる仕組みの構築にも取り組んでいきます。

課題解決型人文学

現代社会がかかえる大きな課題を見据え、その解決を総合的観点から推進する研究を「課題解決型」研究と呼んでいます。たとえば、環境問題のように、複雑に絡み合った問題には、多くの分野の研究者が参画し、結束して対処してゆかねばなりません。人文学分野が生み出す大規模データを、自然科学や社会科学の領域にも活用しうるように整備することで、さまざまな現代社会の課題に人文学分野の研究からも積極的に参画することができるようになるはずです。

本計画の５つの実施内容

本計画の具体的な実施内容は以下のとおりです。

データインフラストラクチャーの構築

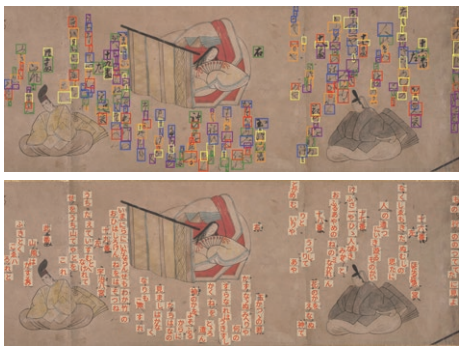
本計画の基盤となるデータ駆動システムのハード面・ソフト面にわたる開発と運用計画の調整を行い、実際の運用を行います。

①データ駆動型システム開発（基礎段階）
②権利関係などのガイドライン策定
③分野横断的データカタログの整備
④連携機能の強化・拡張

人文系データ分析技術の開発

国立情報学研究所、情報・システム研究機構データサイエンス共同利用基盤施設、一般財団法人人文情報学研究所、凸版印刷株式会社との間で現在個別に行っている共同的研究の成果に基づき、AI技術の活用による研究資料の抽出とその多分野への適応、テキスト分析・解析技術及び画像等の非テキストによる検索技術の開発、データ蓄積の国際標準化への対応を行ない、人文学系データをデータ駆動型に統合する方法と分析手法の開発を行います。

①メタデータ付与に関する合意形成と汎用的仕組みの検討
②画像検索・解析技術の精度向上
③AI技術に基づく機械可読データの自動化
④国際テキスト（TEI）に関するツール開発



AIを用いた認識技術
（人文学オープンデータ共同研究センター（CODH）http://codh.rois.ac.jp/ 提供）

コンテンツ解析からの展開

従来、人文科学分野で活用されてきたエビデンスデータを自然科学・社会科学にも活用できるデータに改変し、現代社会の直面する課題を解決する共同研究を行います。

①典籍防災学の拡大
②典籍人類学の構築

国立極地研究所との共同研究
星石４Dプロジェクト（https://hoshi-ishi4d.jp/）

マテリアル分析・解析

1000年の歴史を有する日本の書物には、記されたテキストの伝える情報とともに物質として伝えられた情報も蓄積されています。従来ほとんど行われてこなかったマテリアルとしての書物からの情報抽出及び分析・解析技術の確立を目指します。

①実験ラボの構築
②分析技術の確立と実装
③書物の復元技術の確立

高解像度デジタルマイクロスコープで
拡大した『いろはたんか』

データ駆動型人文学研究の展開

データインフラストラクチャーの構築、人文系データ分析技術の開発、コンテンツ解析からの展開、マテリアル分析・解析の4つの成果を俯瞰的立場から統合し、データ駆動型の人文学のコンセプトデザインを行います。

日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画

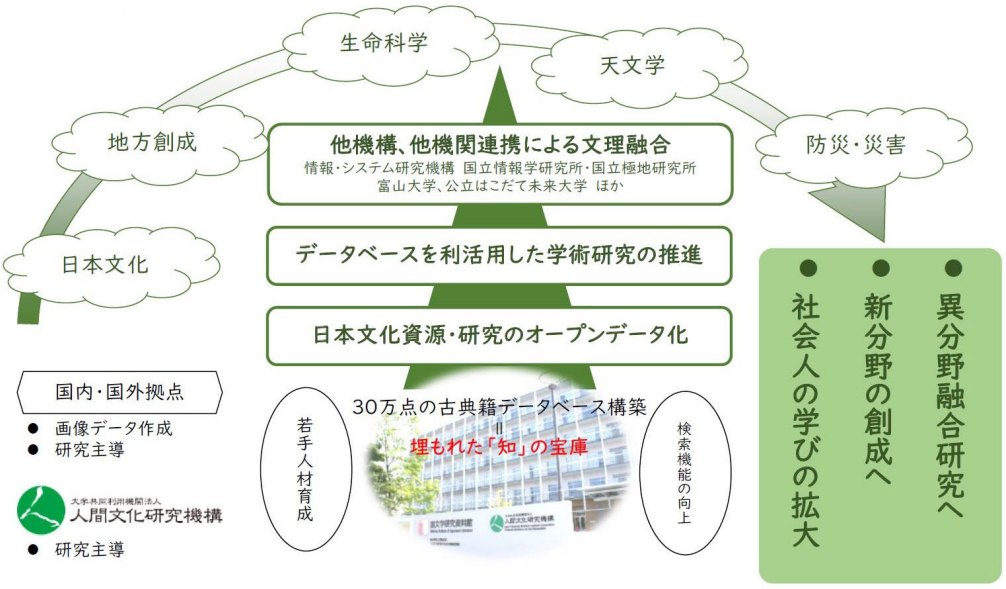
（略称：歴史的典籍NW事業／ NIJL-NW project）

本事業は、当館が中心となり、国内外の大学等と連携して、古典籍約30万点の全冊画像化を行い、当館が構築してきた古典籍の書誌データベースと統合して、自在に画像を検索できるデータベース「新日本古典籍総合データベース」という研究基盤を作り、その画像を用いて国際的な共同研究のネットワークを構築するものです。

こうした古典籍の画像化は、文化財危機（原本資料の破損・劣化、自然災害による消失等）への対応ともなり、文化財の後世への継承にも貢献することになります。

本事業における共同研究では、データベースを活用し、人文学分野にとどまらず、自然科学分野までを包括する文理融合による国際的な規模での共同研究を推進してまいります。

NIJL-NWプロジェクト概要図



実施計画

2014年度から2023年度までの10年間で実施します。国際的に共同研究を展開し、併せて共同研究のテーマと連動させながら古典籍に関するデータベース「新日本古典籍総合データベース」の拡張を進めていきます。

古典籍画像は、分野別に収集し、順次公開する予定です。

①日本語の歴史的典籍DBの構築

◆30万点の画像データの作成

◆新日本古典籍総合データベースの運用

◆検索機能の向上化・多言語化対応

②国際共同研究ネットワークの構築

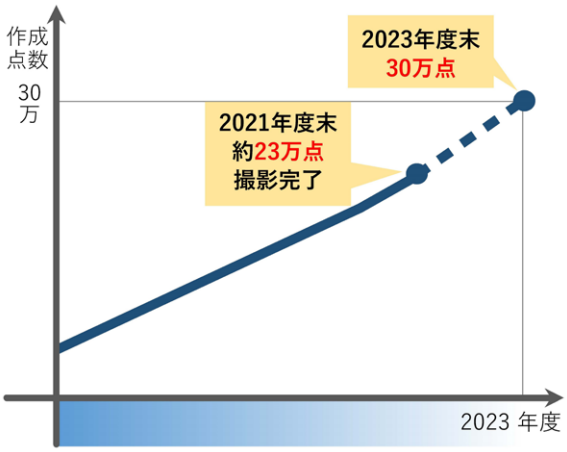
◆異分野融合を踏まえたネットワークの拡充

③国際共同研究の推進

◆異分野融合研究の醸成

◆「総合書物学」の創出

◆文献観光資源学研究の推進



30万点の画像データ作成計画

実施体制

人間文化研究機構の各機関や、国私立大学に設置する20拠点及び国内外の研究機関、ならびに国立情報学研究所、国立極地研究所等と連携して本事業を実施しています。

古典籍共同研究事業センターには、センター運営委員会、日本語歴史的典籍ネットワーク委員会、国際共同研究ネットワーク委員会、拠点連携委員会、資料活用連絡協議会を置き、学識経験者や研究者コミュニティの意見を踏まえて、本事業を推進しています。また、センター運営委員会の下にNW事業実施委員会を置くことで、当館のすべての教員が本事業の全体を把握し、役割と責任を分担しつつ事業を推進していくための体制となっています。

2021年度の画像情報作成状況(総点数 約3万8千点)

● 拠点大学

東北大学、筑波大学、東京大学、國學院大学、立教大学、名古屋大学、京都大学、同志社大学、大阪大学、関西大学、立命館大学、神戸大学、広島大学、九州大学

● 専門性の高い分野別収集

帯広畜産大学、宮城教育大学、茨城大学、城西大学、慶應義塾大学附属研究所斯道文庫、専修大学、東京学芸大学、東京藝術大学大学美術館、東京経済大学、一橋大学、日本体育大学、東海大学、東洋大学、二松学舎大学、横浜国立大学、白百合女子大学、清泉女子大学、共立女子大学、大妻女子大学草稿・テキスト研究所、新潟大学、四天王寺大学、相愛大学、皇學館大学、武庫川女子大学、岡山大学、山口大学、愛媛大学、琉球大学、弘前市立弘前図書館、野田市興風図書館、国立国会図書館、国立国語研究所、東京書籍東書文庫、研医会図書館、アドミュージアム東京、三康文化研究所附属三康図書館、江戸東京博物館、静岡県立中央図書館、嵐牛俳諧資料館、京都府立京都学・歴彩館、中津市歴史博物館、大英図書館

新日本古典籍総合データベース

歴史的典籍NW事業の推進基盤となる「新日本古典籍総合データベース(Database of Pre-Modern Japanese Works)」は2017年より公開されています。

文学分野のみならず医学・理学分野等あらゆる分野の古典籍画像も多く含まれており、人文学以外の研究者との異分野融合研究を醸成する研究基盤として、国内外の大学等と連携のもと、今後は古典籍30万点を擁する大規模画像データベースとなる予定です。

公開サイト
https://kotenseki.nijl.ac.jp/

新日本古典籍総合データベースの概要と特長

唯一の日本古典籍ポータルサイトとして、当館が長年蓄積した豊富な書誌と国内外のさまざまな機関が所蔵する古典籍のデジタル画像が利用できます。

Point1　探しやすい

タイトルやキーワードでの検索のほか、画像に付けられたタグ、本文テキスト、おすすめキーワード、ピックアップコンテンツなど、多彩な検索ができる！

▲検索トップページ

https://kotenseki.nijl.ac.jp/

Point2　引用しやすい

電子データに付与される国際的識別子、DOI（デジタルオブジェクト識別子）の採用により、永続的なアクセスを保証。
論文などに引用したいときに便利！

DOI
https://doi.org/10.20730/200021913

変換

新日本古典籍
総合データベース
http://kotenseki.nijl.ac.jp/biblio/200021913

データベースの URL が代わっても DOI は変わらず、リンク切れが発生しない

https://www.doi.org/

Point3　活用しやすい

デジタルアーカイブの新しい規格、IIIF（International Image Interoperability Framework：トリプルアイエフ）を採用。
異なるデジタルアーカイブ間での画像共有や再利用が容易！

▲画像ビューア

http://iiif.io/

利用にあたっては、パンフレットをご参照下さい。
「新日本古典籍総合データベース　パンフレット（クイックガイド付）」
http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/
からダウンロードできます。

こちらから
パンフレットPDFを
ご覧いただけます

オープンデータの取り組み

当館では、古典籍をもっと自由に研究・活用いただくため、当館所蔵資料のオープンデータ化を進めています。その取り組みの一つとして、情報・システム研究機構の国立情報学研究所及びデータサイエンス共同利用基盤施設人文学オープンデータ共同利用センター（以下「CODH」）との協働により、CODHのサイトから以下の3種類のデータセットを公開しています。

いずれのデータも「クリエイティブ・コモンズ 表示 - 継承 4.0 国際 ライセンス（CC BY-SA）」の下に提供していますので、この条件に同意される方であれば、どなたでもご利用いただけます。

当館オープンデータのサイト　https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/data_set_list.html

● 日本古典籍データセット

【点　　数】 3,126点　※2022年3月現在
重要文化財や貴重書を含む国文学分野のほか、当館で収集した医学や理学、産業など多分野の古典籍、味の素食の文化センターが所蔵する料理本等で当館が撮影した古典籍を含んでいます。

【構　　成】 ①古典籍画像データ　②書誌データ　③本文テキストデータ　④タグデータ

【公開サイト】 http://codh.rois.ac.jp/pmjt/

● 日本古典籍くずし字データセット（旧名称：日本古典籍字形データセット）

【データ数】 4,645文字種　1,086,326字　※2022年3月現在
国立国語研究所所蔵資料と味の素食の文化センター所蔵資料を含む44点の資料から字形データを採取しています。

【構　　成】 ①原本補正画像データ　②文字座標データ　③字形画像データ

【公開サイト】 http://codh.rois.ac.jp/char-shape/

● **江戸料理レシピデータセット**

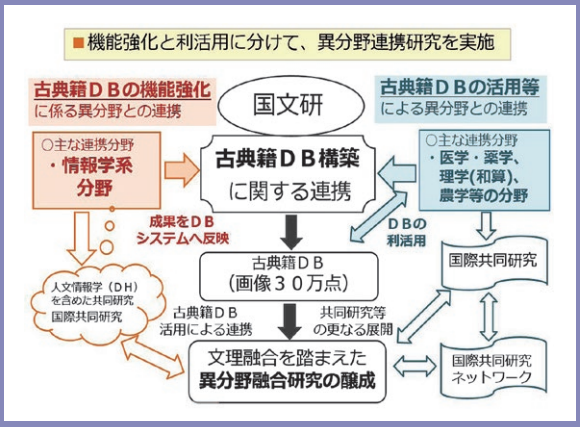
【点　　数】 107種類
43種類は現代語訳データ有り、更にそのうち34種類は現代レシピデータがあります。

【構　　成】 ①原本画像データ　②翻刻テキストデータ　③現代語訳データ　④現代レシピデータ

【公開サイト】 http://codh.rois.ac.jp/edo-cooking/
（CODHでの公開のほか、「クックパッド江戸ご飯」でも公開中です）

共　同　研　究

本事業においては、国内外の多様な分野の研究者が参加した研究ネットワークを作り上げることによって、膨大に集積された日本古典籍に新たな研究の光を当て、それらを知的資源として活用していくことを目標としています。この目標に向け、すべての分野を網羅する30万点の日本古典籍の全冊画像データベースの構築に国内の諸大学・機関と共同して取り組むとともに、先導的な共同研究を実施し、広く多様な分野の研究者に参画を促しています。



2014年の開始以降、海外の研究者を中心に日本文化を総合的に研究するテーマに取り組む、日本古典籍を広い視野から利活用する「国際共同研究」、さまざまな分野の日本古典籍に散在する情報の活用を目指し、理系研究者等とともに取り組む「異分野融合共同研究」、人間文化研究機構の国立歴史民俗博物館、国立国語研究所、国際日本文化研究センターと連携して実施する「機構内連携共同研究」、検索機能の高度化等を推進するための「研究開発系共同研究」などさまざまな形での共同研究を実施しています。

これらの共同研究では、若手や女性研究者、さらには国外研究者の参画も配慮し、これまでに40を数える分野の研究者と協働するほか、国際的評価を受けた共同研究も輩出しています。

《2022年度実施共同研究》

国際共同研究

● **画像に紐付くメタデータ生成に関する協同研究（2021年度～ 2023年度）**
Unit A コンテンツのメタデータ生成（教材化を含む）に関する研究
Unit B デジタルに基づく研究方法の形成と情報基盤の国際構築

異分野融合共同研究

● **星石4Dプロジェクト（隕石関係）（2020年度～ 2023年度）**
相手先機関：国立極地研究所等

● **歴史資料を活用した減災・気候変動適応に向けた文理融合研究の深化（2020年度～ 2023年度）**
相手先機関：茨城大学地球・地域環境共創機構等

● **古典籍画像に基づくICT活用教育プログラムの開発（2020年度～ 2023年度）**
相手先機関：信州大学等

● **古典籍画像に基づくICT活用教育ツールの開発（2020年度～ 2023年度）**
相手先機関：豊田工業高等専門学校

● **デジタル人文学に関する教育・人材育成プログラムの基盤整備（2021年度～ 2023年度）**
相手先機関：人文情報学研究所等

● **典籍に基づく日本文化の再発見（食・装い）（2022年度～ 2023年度）**
相手先機関：京都府立大学、立命館大学

その他、発酵学、感染症、海洋資源等の新規分野との共同研究を展開する予定。

研究開発系共同研究

検索機能の高度化等を推進するため、研究開発系共同研究を実施しています。

- 典籍の全文テキスト化に関する共同研究(凸版印刷株式会社)
- ワードスポッティング等によるテキスト化を経ないキーワード抽出(公立はこだて未来大学)
- AIによるテキスト化に関わる総合的研究(国立情報学研究所、人文学オープンデータ共同利用センター)
- 検索機能の向上化と古典籍の研究活用研究(国立情報学研究所、人文学オープンデータ共同利用センター)
- TEI (Text Encoding Initiative)に関する発展的研究(人文情報学研究所、北海学園大学等)
- 多元光情報等の高次元処理等によるマテリアルとしての典籍情報解析に関する応用研究
  (奈良先端科学技術大学院大学、実践女子大学文芸資料研究所)
- 画像作成及びカタロギングにおけるアルゴリズム改良に関する共同研究(大英図書館、白百合女子大学等)
- 次期IIIFビューワに関する研究(東京大学史料編纂所、人文情報学研究所等)
- 字形データ活用による研究ツールに関する研究(奈良文化財研究所、国立国語研究所等)
- AI活用による現代語訳化に関する準備研究(国立国語研究所等)

研究成果の発信及び広報活動状況

共同研究の成果や本事業の活動状況について、広く社会の理解を得るため、プレスリリースや、国際研究集会のライブ配信、市民参加型の取り組みを中心に活動を行っています。

2021年度プレスリリース

当館及び共同研究先の機関と連携した研究成果等のプレスリリースを積極的に展開しています。

2021年4月16日(金)　ポーラ文化研究所所蔵の化粧文化に関する資料、高精細デジタル画像でオンライン閲覧が可能に。古典籍176冊・浮世絵349点を4月16日に公開。

2021年7月8日(木)　国文学研究資料館と東海大学付属図書館データベース構築に関する覚書締結。桃園文庫の古典籍を国文研でデジタル化。

当館主催のシンポジウム等

- 第7回「日本語の歴史的典籍国際研究集会」を開催しました。(2021年11月11日(木))
  昨年に引き続きオンラインで開催し、ライブ配信を実施しました。
  開催後、センター HP特設ページ内でアーカイブ動画を公開しました。
  https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/sympo2021.html

その他の活動状況

- 大阪で開催された「第6回関西教育ICT展」において、「新日本古典籍総合データベース」を紹介するブースを出展しました。(2021年8月5日(木)～6日(金))
- 神戸大学人文学研究科・文学部との共同主催で、「人文学研究とDX―その展開と可能性」と題し、オンラインで講演を行いました。(2021年8月20日(金))
- EAJS2021(第16回 欧州 日本研究協会国際会議)において、"The future possibilities of DH in Japanese Studies (part2)"と題し発表を行いました。(2021年8月27日(金))
- サンクト・ペテルブルグ(ロシア)で開催されたThe 31st EAJRS Conferenceにおいて、「オンライン画像を使った研究と図書館での研究」と題し、オンラインで発表を行いました。(2021年9月16日(木))
- オンラインで開催された「第23回図書館総合展」において、新日本古典籍総合データベースおよび関連するコンテンツの紹介、デジタル撮影についての紹介を行いました。(2021年11月1日(月)～30日(火))
  URL：https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/forlibrarians.html
- 国際共同研究の成果を発信する英文オンライン・ジャーナル"Studies in Japanese Literature and Culture" Volume 5を2022年3月22日(火)に刊行しました。
  URL：https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/sjlc.html
- 本事業を紹介するニューズレター「ふみ」を2回(16号、17号)発行しました。ホームページからもPDF版の配信をしています。
  URL：https://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/newsletter_fumi_new.html

公開データベース

日本文学及びその関連領域研究のため、当館ではさまざまなデータベースを作成しています。
以下のデータベースを当館ウェブサイトの電子資料館
(https://www.nijl.ac.jp/search-find/#database) で公開しています。

図書・雑誌所蔵目録 (OPAC)	当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌 (逐次刊行物) の目録。
国文学論文目録データベース	明治21年から現在に至る国文学関係論文の目録。
新日本古典籍総合データベース	「歴史的典籍NW事業」により構築している古典籍のデータベース※1。
日本古典籍総合目録データベース	日本の古典籍の書誌・所在情報を、著作・著者の情報 (典拠情報) とともに提供する総合目録。
館蔵和古書目録データベース	当館所蔵の和古書の目録。
古典選集本文データベース	二十一代集、絵入源氏物語、吾妻鏡、歴史物語、奈良絵本の当館蔵書底本テキストの全文検索と画像閲覧。
所蔵機関との連携による日本古典籍デジタル画像データベース	古典籍資料を所蔵する機関と国文研が提携・協力し、国文研のweb上で古典籍画像の検索と閲覧を行えるように構築。現在は、広島大学附属図書館所蔵「読本」コレクション、宮内庁書陵部所蔵マイクロフィルム画像、「津軽デジタル風土記」を公開。
日本古典資料調査記録データベース	当館が調査してきた国内外の写本・版本等の「文献資料調査カード」から主要な書誌情報を抽出。
近代書誌・近代画像データベース	明治期以降の国文学を中心とした文献資料の調査・収集の成果を公開。
収蔵歴史アーカイブズデータベース	史料館旧蔵の資料群を中心とした当館収蔵歴史資料 (アーカイブズ) の概要及び目録を収録。
コーニツキー・欧州所在日本古書総合目録データベース	欧州各国の図書館・美術館・博物館等所蔵の「日本の和装本」の書誌・所在情報。
明治期出版広告データベース	近代日本の出版事情を探ることを目的とし、明治前期の新聞・雑誌等に掲載された出版物の広告を集成。
歴史人物画像データベース	国書古典籍中の絵入り叢伝から、主に明治以前の古典キャラクターの人物画像を収録。また、伝記解題は当館所蔵の典籍やマイクロフィルムに収載される人物伝・人物叢伝の内容の解題と、どんな人物が収載されているかをデータベース化。
連歌・演能・雅楽データベース	連歌データベースと演能データベースを連結し、新規作成の雅楽データベースを添え、セットにして公開。
新奈良絵本データベース	当館所蔵の奈良絵本 (19本) の原本画像を公開。
古事類苑データベース	日本の古代から近世までの制度・文物・社会に関する百科事典『古事類苑』大正洋装本のデータベース。
古典学統合データベース (地下家伝・芳賀人名辞典)	日本の古典研究に関わる人物情報を収録。現在、『日本人名辞典』と『地下家伝』を搭載。
古筆切所収情報データベース	『古筆切提要』以後に影印刊行された古筆切類の所収情報。
日本文学国際共同研究データアーカイブ	科研費基盤研究 (S)「国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」により構築された、海外の研究目録・論文画像・翻訳作品等のデータベースをアーカイブ化。
蔵書印データベース	当館所蔵の古典籍を中心に、原本から採取した蔵書印情報を印影とともに収録。
アーカイブズ学文献データベース	アーカイブズ学に関する国内研究文献データベース。個々の文献で章立てがあるものは「内容」に全て採録。
史料情報共有化データベース	国内外で公開されている資料群 (アーカイブズ) 情報 (歴史資料を公開する各収蔵機関による共同構築)。
日本実業史博物館コレクションデータベース	日本実業史博物館準備室旧蔵資料のうち絵画・器物・広告・文書・書籍の資料情報と画像を公開。
館蔵社寺明細帳データベース	当館所蔵の戦前期における全国の神社明細帳に関する神社名・所在地・社格等を収録。
伊豆韮山江川家文書データベース	財団法人江川文庫が所蔵する古文書・文芸関係の目録情報を同文庫との協業により公開。
史料所在情報データベース	国内各地に伝来する資料群の所在・概要情報 (詳細版は利用登録制)。
増田太次郎広告コレクションデータベース	増田太次郎氏が収集した広告類の主要部分の書誌情報・画像を公開。
近世語彙カードデータベース	歌舞伎・浄瑠璃用語など約15万枚の近世語彙カードのデータベース。
在外日本古典籍所蔵機関ディレクトリ	日本の古典籍を所蔵する日本国外の機関の連絡先、閲覧の可否等の情報を英語 (一部日本語も有) で提供。
噺本大系本文データベース	『噺本大系』(東京堂出版刊) の全文検索。
日本古典文学大系本文データベース	旧版『日本古典文学大系』(岩波書店刊) の全文検索 (大学・短大以上の高等教育機関などに対して公開)。
マリオ・マレガ資料データベース	マリオ・マレガ収集のキリシタン関係文書およびマレガ資料等の目録・画像を公開。

2022年4月1日現在

※1　新日本古典籍総合データベースについては、11頁をご覧下さい。
※2　学術情報リポジトリについては、こちらをご覧下さい。https://kokubunken.repo.nii.ac.jp

事業概要

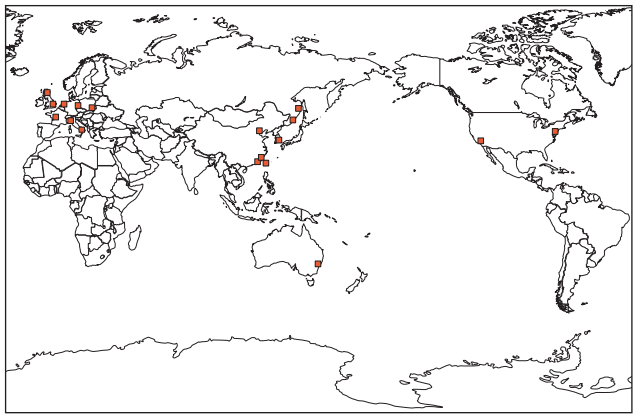
事業の目的

国内外に所蔵されている日本文学及び関連資料の専門的な調査研究と、撮影及び原本による収集を行い、得られた所在・書誌情報を整理・保存し、日本文学及び関連分野の研究基盤を整備しています。また、これらをさまざまな方法で国内外の利用者に提供するとともに、展示・講演会等を通じて社会への還元を行っています。

1 調査収集

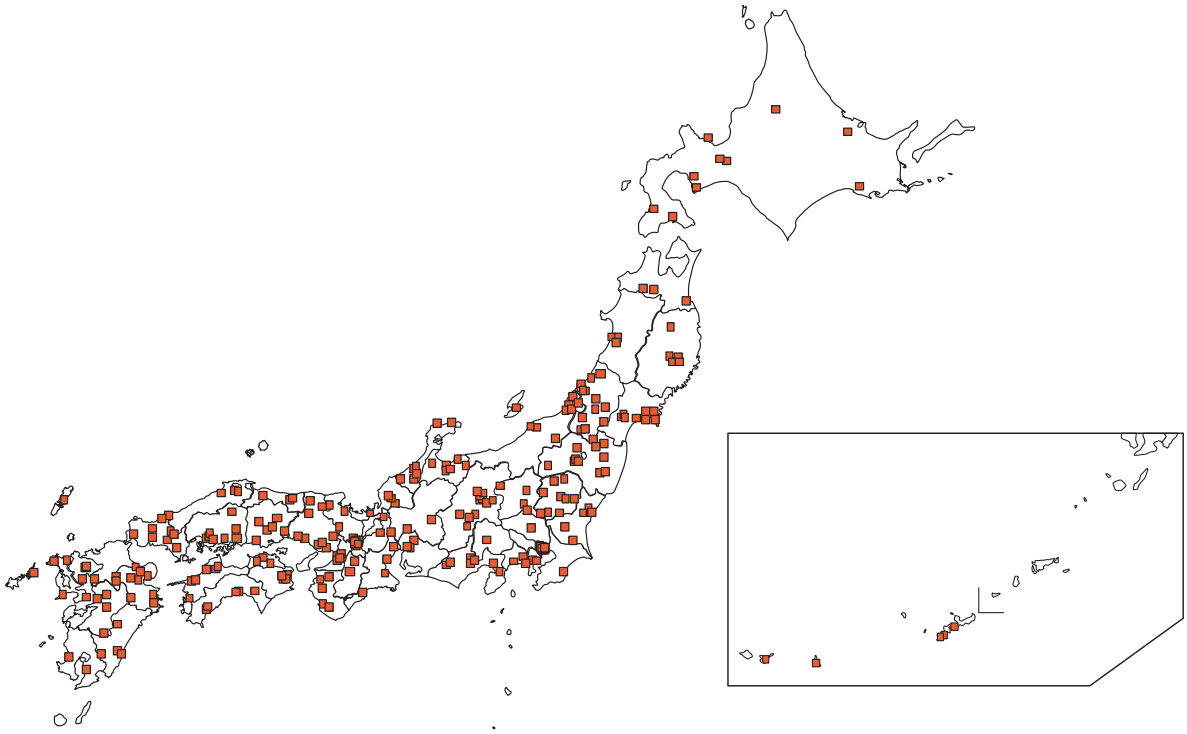
全国の大学等に所属する研究者と連携し、日本文学及び関連する原典資料(写本・版本等)の所蔵先に赴き、書誌的事項を中心とした調査研究を行っています。

こうした調査研究と併行して、全国の図書館・文庫等に所蔵される原典資料を、マイクロフィルム又はデジタル画像として全冊撮影することによって収集し、一般に提供しています。



これまでの調査・収集件数

調査	国内	1,035箇所	423,906点
	海外	67箇所	16,367点
	計	1,102箇所	440,273点
収集	国内	391箇所	219,358点
	海外	13箇所	1,518点
	計	404箇所	220,876点



■2021年度調査箇所一覧

関東地区
最明寺
中国・四国地区
鳥取県立博物館
手銭記念館
正宗文庫
光市文化センター
高知県立高知城歴史博物館
九州・沖縄地区
祐徳稲荷神社(中川文庫等)
大分県立先哲史料館
近代
アドミュージアム東京

■2021年度収集箇所一覧

北海道・東北地区
宮城県図書館
関東地区
宮内庁書陵部
法政大学(鴻山文庫)
中部地区
富山市立図書館(山田孝雄文庫)
浜松市立賀茂真淵記念館
近畿地区
京都女子大学(蘆庵文庫)
瑞光寺
中国・四国地区
鳥取県立図書館
手銭記念館
正宗文庫
光市文化センター
総本山善通寺
安田女子大学図書館(稲賀文庫)
高知県立高知城歴史博物館

九州・沖縄地区
祐徳稲荷神社(中川文庫等)
肥前島原松平文庫
松浦史料博物館
廣瀬資料館
近代
かごしま近代文学館
アーカイブズ
江川文庫

※所蔵者名敬称略

2 資料利用

図書館では、閲覧・文献複写サービスを行っています。遠隔地の利用者でも、図書館間の相互利用制度により、資料の複写等のサービスが利用できます。大学等に所属していない方は、直接郵送・FAX・メールにより複写申込をすることができます。また、電話等による所蔵調査や文書・FAX・メールによる参考質問も受け付けています。

図　書　館

利用案内

利用時間	開館時間	平日	9：30 ～ 18：00(史料・貴重書の閲覧は9：30 ～ 17：30)
		土曜	9：30 ～ 17：00(史料・貴重書の閲覧は9：30 ～ 16：30)
	書庫資料閲覧受付	平日	9：30 ～ 17：00
		土曜	9：30 ～ 16：00
	複写受付		9：30 ～ 16：00
休　館　日			・日曜日、祝日・振替休日 ・第4水曜日 ・夏季一斉休業日(8月12日から8月16日) ・年末年始(12月27日から1月5日) ・蔵書点検期間(2月20日から2月25日) ※その他、都合により臨時に休館・閉館する場合があります。掲示、当館Webページで確認してください。
サービス	閲　覧		マイクロ資料、和古書(写本・版本)、史料、活字本・影印本、全国の地方史誌、逐次刊行物(土曜日は、史料、貴重書・特別コレクション・寄託資料の閲覧には事前予約が必要)
	複　写		電子複写(リーダープリンターによる複写も含む)・ポジフィルム(ただし史料は除く)
	撮　影		史料等、電子複写できない資料
	貸　出		紙焼き写真本の一夜貸しサービス(一部を除く)
	展示貸出		図書館、文書館、博物館等への貸出
	参考調査		所蔵調査・参考質問の受付、回答
	相互協力		図書館間の相互協力(ILL) による文献複写、資料貸出
問合せ	電　話		利用について　050-5533-2926　情報サービス係 相互利用(ILL)　050-5533-2926　〃 歴史資料について　050-5533-2930　〃 資料の掲載について　050-5533-2930　〃
	FAX		042-526-8607
	E-mail		etsuran@nijl.ac.jp

所蔵資料

資料種別			点数等	冊数等
収集マイクロ資料	マイクロフィルム	日本文学	195,097点	38,192リール
		歴史	202件	6,308リール
	紙焼写真本	日本文学	—	68,935冊
		歴史	—	11,196冊
図書	和古書		18,346点	61,381冊
	活字本・影印本等		112,348件	197,034冊
	逐次刊行物		9,450誌	—
	マイクロフィッシュ		16,667点	57,358枚
史料			505件	約520,000点
寄託		日本文学	13件	9,540冊
		歴史	17件	6,847点

代表的な所蔵資料

日本文学関係資料

【貴重書】

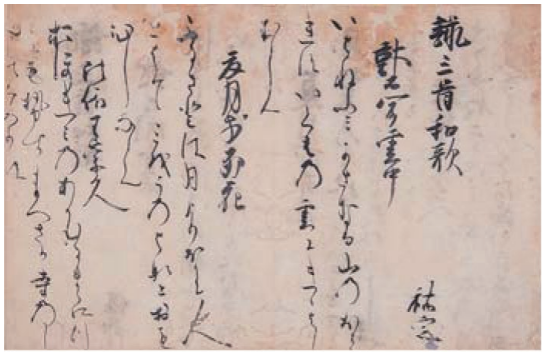
春日懐紙(重要文化財)、天和2年荒砥屋版『好色一代男』、組合せ絵入り古活字版『曽我物語』、鎌倉期写『新古今和歌集』、奈良絵本『うつほ物語』、『新古今和歌集撰歌草稿』、鎌倉期写『源氏物語』16帖ほか217点

【特別コレクション】

西下経一旧蔵の古今和歌集関係等のコレクション(初雁文庫)、作家中村真一郎旧蔵の江戸明治の漢詩文集のコレクション(日本漢詩文集コレクション)、『徒然草』ほかのコレクション(高乗勲文庫)、『新古今和歌集』を中心としたコレクション(懐風弄月文庫)、田安徳川家伝来の日記・記録、有職故実、文学、芸術関係ほかの典籍類(田安徳川家資料(田藩文庫ほか))、明治期の政治家鵜飼郁次郎の収集による書物及び文書・記録類(鵜飼文庫)、重要文化財の山鹿素行著述稿本を含む典籍類(山鹿文庫)、『伊勢物語』とその関連書のコレクション(鉄心斎文庫)ほか24件

【寄託資料】

金子元臣旧蔵書6点、坂田穏好氏古筆切コレクション156点、増田コレクション6,690枚50箱ほか13件



春日懐紙(当館所蔵)

書庫

歴史関係資料

所蔵史料は近世・近代を中心に52万点に及び、地域的にはほとんどの都道府県を網羅している。

近世史料には『尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書』『信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書』等の町方・村方文書が多数を占めるが、『信濃国松代真田家文書』『阿波国徳島蜂須賀文書』『山城国淀稲葉家文書』等の武家文書、『山城国京都三条西家文書』等の公家文書や『山城国葛野郡嵯峨天龍寺塔頭臨川寺文書』等の寺社文書がある。

近代史料には『愛知県庁文書』『岡山県・広島県・鳥取県下市町村役場文書』等の県庁文書、戸長役場、村役場文書がある。

3 国際交流

日本の文学は世界中で研究されています。多様な研究の視野と手法を共有して日本の文学を見つめることは、日本文学研究の大切な課題です。このような認識のもとに、当館では国際連携部を設置し、国際交流活動の活性化を図るとともに、国内外における研究集会やシンポジウム、日本古典籍を研究資源としたセミナーを開催するなど、積極的な活動を行っています。

また複数の機関が限られた資源を共有し、相互の長所・短所を補完できる場として、日本古典籍研究に特化した「日本古典籍研究国際コンソーシアム(Global Consortium for Japanese Textual Scholarship)」を、2020年11月1日付けで国内外の参加機関と共に任意団体として設立しました。事務局は当館が担当。参加機関数は、2022年3月末現在で82機関(国内41機関、国外41機関)です。https://kotenseki.org/

学術交流協定の締結

日本文学研究の国際的な拠点として、海外の研究機関及び研究者との多様な学術交流事業を積極的に進めています。特に海外機関との学術交流協定を締結することにより、安定的かつ継続的な研究交流が実現できるように努めています。

交流の内容としては、研究者の招聘・派遣、国際研究集会の開催を中心に、共同調査、共同研究の実施、大学院生等の短期研修受入についても構想しています。

現在、以下の海外機関と学術交流協定を締結しています。

- コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所(フランス共和国)
- ヴェネツィア大学「カ・フォスカリ」アジア・地中海アフリカ研究学科(イタリア共和国)
- ナポリ大学「オリエンターレ」(イタリア共和国)
- サピエンツァ ローマ大学イタリア東洋研究学科(イタリア共和国)
- フィレンツェ大学教育・言語・国際文化・文学・心理学部(イタリア共和国)
- 北京外国語大学北京日本学研究センター(中華人民共和国)
- ライデン大学人文学部(オランダ王国)
- ブリティッシュ・コロンビア大学文学部アジア研究学科(カナダ)
- コロンビア大学東アジア言語文化学部(アメリカ合衆国)
- 高麗大学校グローバル日本研究院(大韓民国)
- カリフォルニア大学バークレー校C.V.スター東アジア図書館(アメリカ合衆国)
- ベルリン国立図書館(ドイツ連邦共和国)
- バチカン図書館(バチカン市国)
- ハワイ大学マノア校東アジア言語文学学科(アメリカ合衆国)
- ハイデルベルク大学日本学科(ドイツ連邦共和国)
- ゲーテ大学フランクフルト・アム・マイン言語学・文化学・芸術学部(ドイツ連邦共和国)
- 大英図書館理事会(イギリス)
- スミソニアン協会〔フリーア美術館、アーサー・M・サックラー・ギャラリー〕(アメリカ合衆国)
- アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター(Inter-University Center for Japanese Language Studies)

国際日本文学研究集会ワークショップ(文献資料ワークショップ)

国際日本文学研究集会の開催時期が、より多くの留学生の参加を企図して5月に変更されたため、2020年度は国際日本文学研究集会の代替として、国際日本文学研究集会ワークショップを3回開催し、日本古典籍を研究資源とした研究史・研究テーマ概説、古典籍の取り扱い方、国文研のデータベースの利活用等をめぐる実践的なガイダンスを行いました。好評につき、2021年度も3回開催しており、2022年度についても継続してオンラインでの開催を予定しています。

国際日本文学研究集会

本集会は日本文学研究の発展を目的とし、若手日本文学研究者の育成と、国内外の日本文学研究者の交流を深めるため、毎年秋に開催してきましたが、留学生の方にも参加して頂きやすいよう、第44回から5月上旬に日程を変更いたしました。

第45回は、COVID-19感染拡大防止のため、引き続きオンラインにて開催します。

日　程：2022年5月14日（土）～5月15日（日）
会　場：オンライン（Zoomミーティング及び
　　YouTubeライブ配信予定）

第44回国際日本文学研究集会ポスター
（2021年5月8日～9日に開催、延べ160名参加）

日本古典籍セミナー

日本文化の礎である古典籍について、海外の研究者や研究機関等と連携し、書誌学や書物文化を中心としたセミナーを開催しています。

第７回	2019年２月26日	北京外国語大学北京日本学研究センター（中華人民共和国）
第８回	2019年３月１日	ハワイ大学マノア校・ホノルル美術館（アメリカ合衆国）
第９回	2021年２月27日	オンライン開催（北京外国語大学北京日本学研究センターとの共催）
第10回	2022年３月19日	オンライン開催（北京外国語大学北京日本学研究センターとの共催）

第７回　日本古典籍セミナー

第８回　日本古典籍セミナー

海外研究者との交流（外国人研究員・外来研究員）

日本文学研究の国際化を促進するために、海外において第一線で活躍する日本文学およびその周辺領域の研究者を外来研究員等として受け入れ、学術資料の利用および人材交流の場として当館を提供しています。

4 社会連携活動

研究成果を広く社会に還元するため、展示、講演会、シンポジウム、セミナー等、さまざまなイベントを開催しています。

展示

資料の調査研究や共同研究などで出された成果をもとに、1階に設置されている展示室にて開催しています。

展 示 室

2022年度展示予定

特別展示「創立50周年記念展示 こくぶんけん〈推し〉の一冊」

2022年5月13日から8月31日まで開催

当館の創立50周年を記念して、次のようなコンセプトで開催します。

本展示は3つの章に分かれており、第一章「〈推し〉の一冊」では、当館に所属している研究者が「推し」とする館蔵の作品を紹介します。情報系研究者は日本文学と連携した研究を紹介します。第二章「国文研をひらく」では7つのテーマを設け、展示ではあまり利用していない作品をご覧いただきます。そして第三章「国文研のこれまでとこれから」では当館の歴史にまつわる資料を写真とともに振り返ります。

当館の研究者が厳選した個性豊かな古典籍を堪能していただけますと幸いです。

通常展示「書物で見る　日本古典文学史」 2022年10月19日～2023月1月25日（予定）

上代から明治初期までの文学を、書物（古典籍）によってたどります。最近の研究動向にも配慮をしていますが、むしろ教科書でなじみの深い作品を中心に据えて、文学史の流れを示しました。

写本の表情や版本の風合いに触れながら、豊かな日本古典文学史の諸相をお楽しみいただけるようにしています。

通常展示「和書のさまざま」 2023年3月1日～5月下旬（予定）

和書について、まず形態的に、次に内容的な構成を説明した上で、各時代の写本・版本や特色ある本を紹介します。全体を通して和書の基本知識を学んでいただくとともに、和書について考えるきっかけとなることをも意図しています。

特設コーナー

通常展示開催期間中、展示室の一部のスペースに、特設コーナーを設け、当館新収資料等の展示を予定しています。

講演会等

(1) アーカイブズ・カレッジ

記録史料の保存と利用サービス等の業務を担う専門職員の養成のため、長期コースと短期コースを開催しています。

長期コースは、7月19日（火）～8月5日（金）、8月22日（月）～9月9日（金）の間の計6週間、短期コースは福島県富岡町文化交流センター「学びの森」において11月7日（月）～11月12日（土）に開催を予定しています。

2021年度 アーカイブズ・カレッジ短期コース

(2) 日本古典籍講習会

国内外の日本の古典籍を扱っている図書館や文庫の司書を対象とし、古典籍の基礎知識・取り扱い等に関する講習会を国立国会図書館との共催で開催しています。

2022年度は7月12日（火）～15日（金）の4日間、オンライン（Zoom）にて開催する予定です。

2019年度　日本古典籍講習会

多摩学術文化プラットフォーム「ぷらっとこくぶんけん」

当館では、多摩信用金庫と協定を締結し、多摩地域における学術・文化の発展に関する事業を継続的に実施するために、当館を中心に企業、自治体、大学等各種団体で構成するプラットフォームとして、多摩学術文化プラットフォーム「ぷらっとこくぶんけん」を設立しました。

「ぷらっとこくぶんけん」の事業として、多摩地域の学術・文化に関する講座、講演会の開催、所蔵資料、データベース等を活用した各団体との連携協力、産学連携の推進を実施していきます。

【お問い合わせ】　国文学研究資料館　ぷらっとこくぶんけん担当
E-mail：platform@nijl.ac.jp

2021年度事業

- こくぶんけんカフェ
- 一冊対談集
  クリエーターと語るこの国の古典と現代
  第8回(河瀬直美×ロバート キャンベル)

こくぶんけんカフェ

ないじぇる芸術共創ラボ ―アートと翻訳による日本文学探索イニシアティブ

当館では2017年10月より、「ないじぇる芸術共創ラボ ―アートと翻訳による日本文学探索イニシアティブ」を実施しています。当事業は、当館に所蔵されている豊富な古典籍に、アーティストや、日本語を母国語としない翻訳家に触れていただき、研究者との創作ワークショップを通して、新たな文化芸術的価値を共創しようというものです。

具体的には、レジデンスプログラムとして、アーティスト・イン・レジデンス(AIR)とトランスレーター・イン・レジデンス(TIR)を招へいし、研究者と古典籍についてのワークショップを行い、意見交換や相互触発等からその本質に肉薄することで、既存の枠組みを超えた多彩な作品を創出しています。

この創作の場をサポートするのは、日本古典文学の専門的知識を有する若手研究者の「古典インタプリタ」です。AIR、TIRと密に連携し、研究者との橋渡しをしながら創作活動を牽引し、また民間企業や地方自治体とも協業しつつ、活動の様子の多言語化やSNS、WEBサイトからの発信など、多角的に日本文化の国内外への発信を行っています。

ないじぇる芸術共創ラボ WEBサイト
https://www.nijl.ac.jp/pages/nijl/

創作ワークショップの様子

トークイベントの様子

教員一覧（2022年4月1日現在）

館長

氏　名		研究内容
渡部　泰明	WATANABE Yasuaki	和歌史の研究

研究部

氏　名		職　名	研究内容
入口　敦志	IRIGUCHI Atsushi	教授 副館長（企画調整担当）	近世文学研究
神作　研一	KANSAKU Ken'ichi	教授 副館長（研究担当）	日本近世文学、特に和歌史・学芸史の研究
海野　圭介	UNNO Keisuke	教授 （研究主幹）	中世文学・和歌文学の研究、禁裏公家を中心とした古典学に関する研究
落合　博志	OCHIAI Hiroshi	教授 （研究主幹）	中世文学・中世芸能の研究、古典籍書誌学の研究
西村　慎太郎	NISHIMURA Shintaro	教授 （研究主幹）	福島県原子力災害被災地域の歴史資料保全と大字誌編纂
藤實　久美子	FUJIZANE Kumiko	教授 （研究主幹）	日本近世・幕末維新期の政治文化の研究。書籍史料論の構築
山本　和明	YAMAMOTO Kazuaki	教授 （研究主幹）	19世紀日本文学研究
齋藤　真麻理	SAITO Maori	教授 *日本文学研究専攻長 （総研大）	中世文学の研究
渡辺　浩一	WATANABE Koichi	教授	日本近世都市史、アーカイブズ学
大山　敬三	OYAMA Keizo	客員教授	情報学、情報検索、特に研究用データセットの構築と共同利用に関する研究
相田　満	AIDA Mitsuru	准教授	中古・中世日本文学、幼学書を中心とする学問・注釈学、説話文学、人文情報学
青木　睦	AOKI Mutsumi	准教授	史料保存に関する研究
青田　寿美	AOTA Sumi	准教授	日本近代文学、特に明治大正期の評論・小説の研究
太田　尚宏	OTA Naohiro	准教授	近世日本における地域行政の研究、近世史料学の研究
加藤　聖文	KATO Kiyofumi	准教授	近代以降の東アジアと日本との関係
木越　俊介	KIGOSHI Shunsuke	准教授	日本近世文学、特に小説史の研究
ダヴァン　ディディエ	DAVIN Didier	准教授	中世仏教と文学
多田　蔵人	TADA Kurahito	准教授	日本近代文学における「引用」の研究
中西　智子	NAKANISHI Satoko	准教授	平安時代文学、物語文学
野本　忠司	NOMOTO Tadashi	准教授	国文学研究における情報利用の高度化に関する研究
松田　訓典	MATSUDA Kuninori	准教授	人文学におけるコンピューター利用に関する研究

氏　　名		職　名	研　究　内　容
山本　嘉孝	YAMAMOTO Yoshitaka	准教授	日本漢文学、特に江戸・明治期の漢詩文
菊池　信彦	KIKUCHI Nobuhiko	特任准教授	デジタルヒストリーおよびデジタルパブリックヒストリー、近現代スペイン史
本多　啓介	HONDA Keisuke	特任准教授	人文社会学を対象とした評価指標に関する研究
江戸　英雄	EDO Hideo	助教	中古文学、特に物語文学の研究
ノット ジェフリー	KNOTT Jeffrey	助教	中世における古典学・古典文学の受容史研究
粂　汐里	KUME Shiori	特任助教	室町時代から江戸時代前期にかけての説話、物語草子、語り物芸能の研究
黄　昱	KOU iku	特任助教	日本中世文学、和漢比較文学、特に日本と中国の説話に関する比較研究

古典籍データ駆動研究センター

氏　　名		職　名	研　究　内　容
大山　敬三	OYAMA Keizo	センター長（併任）	情報学、情報検索、特に研究用データセットの構築と共同利用に関する研究
海野　圭介	UNNO Keisuke	副センター長（併任）	中世文学・和歌文学の研究、禁裏公家を中心とした古典学に関する研究
山本　和明	YAMAMOTO Kazuaki	教授（併任）	19世紀日本文学研究
木越　俊介	KIGOSHI Shunsuke	准教授（併任）	日本近世文学、特に小説史の研究
松田　訓典	MATSUDA Kuninori	准教授（併任）	人文学におけるコンピューター利用に関する研究
菊池　信彦	KIKUCHI Nobuhiko	特任准教授（併任）	デジタルヒストリーおよびデジタルパブリックヒストリー、近現代スペイン史

古典籍共同研究事業センター

氏　　名		職　名	研　究　内　容
山本　和明	YAMAMOTO Kazuaki	センター長(併任)	19世紀日本文学研究
神作　研一	KANSAKU Ken'ichi	副センター長(併任)	日本近世文学、特に和歌史・学芸史の研究
永崎　研宣	NAGASAKI Kiyonori	客員教授	人文学情報のデジタル化に関わる研究(特にデータの公開、人文情報学若手人材育成に関すること)
北村　啓子	KITAMURA Keiko	准教授	人文科学分野を対象とする情報科学理論の研究
松田　訓典	MATSUDA Kuninori	准教授(併任)	人文学におけるコンピューター利用に関する研究
幾浦　裕之	IKUURA Hiroyuki	特任助教	中世和歌文学、女房文学、古典籍書誌学
井黒　佳穂子	IGURO Kahoko	特任助教	中世から近世初期にかけての絵巻・絵入り本に関する研究

若手研究者支援

■特別共同利用研究員制度

国公私立大学の要請に応じ、大学院における教育に協力するため、1979年度から大学院教育協力制度を発足させ、大学院生の受入れを開始し、1998年度からは特別共同利用研究員として受入れの拡充を図りました。

日本国内の国公私立大学大学院の博士課程又は修士課程に在籍し、日本文学、日本史学及び関連領域の分野を専攻する者を「特別共同利用研究員」として受入れ、必要な研究指導を行っています。受入人員は10名程度とし、受入期間は、原則として各年4月から翌年3月までの1年間です。

年度	2017	2018	2019	2020	2021
受入人数	2人	2人	6人	6人	4人

■若手研究者向けイベント

国際日本文学研究集会（2021年度実績）

2021年5月8日(土)～9日(日)
概要：オンラインによる研究発表（口頭発表）
ポスター発表（インフォメーションセッション）
第1～第5セッション14名(うち若手研究者12名)
ポスター発表7名（うち若手研究者4名）
参加者：160人（2日間延べ）

文献資料ワークショップ（2021年度実績）

4月27日、7月1日、9月9日の計3回、オンライン上で開催。
参加者数：延べ75名、主な参加者在住国：アメリカ、日本、カナダ、中国

日本古典籍講習会（2021年度実績）

若手研究者を対象とし、日本古典籍書誌学の初歩的知識の修得を目的に研修を行っています。なお、2021年度の研修プログラムは第19回日本古典籍講習会の第1日と第2日をもって実施しました。

日本古典文学学術賞(国文学研究資料館賛助会主催)

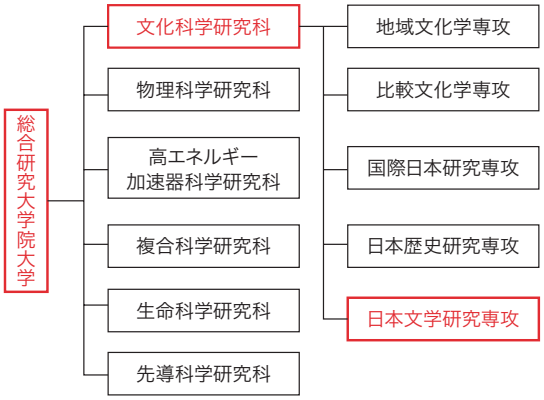
「日本古典文学学術賞」は、財団法人日本古典文学会が主催していた「日本古典文学会賞」を継承し、若手日本古典文学研究者の奨励と援助を目的として、国文学研究資料館賛助会に設置されました。
受賞対象者は、対象となる業績の公表時に40歳未満である研究者です(3名以内)。
第14回「日本古典文学学術賞」につきましては、令和2年(2020年)1月～12月までの業績(著書)を対象とし、選考委員会における選考の結果、2名の受賞者が決定しました。

大学院教育

■総合研究大学院大学文化科学研究科 日本文学研究専攻

原本資料調査に基づいた、膨大な学術情報を集積・研究する先導的な大学共同利用機関である国文学研究資料館を基盤機関とする本専攻では、国文学研究資料館の文化資源を活用しながら、日本文学及びその周辺分野における深い専門知識と関連資料の調査技術・総合的な分析能力の修得を柱とする教育を行います。

日本文学を中心に分野に広く目配りした体系的なカリキュラムによる授業を実施するとともに、複数の教員による指導体制のもとに研究指導を行い、高度な専門知識を有した研究者及び研究業績によって社会に貢献できる人材を育成します。



なお、2023年4月より、総合研究大学院大学は先端学術院先端学術専攻20コース体制(仮称)へ移行予定です。最新情報につきましては、下記Webサイトをご確認ください。

○先端学術院先端学術専攻20コース体制(仮称)特設Webサイト　https://next20.soken.ac.jp/

●日本文学研究専攻在学生数

2022年4月1日現在

入学定員	1年次	2年次	3年次	合計
3	1	1	4	6

●過去5年間の年度別学位取得者数

※論文博士を含む

2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
1	2	0	2	3

●修了生の進路

青山学院大学ヒューマンイノベーション研究センター、金沢大学、慶應義塾大学、高麗大学、国文学研究資料館、四川外国語大学、湘北短期大学、都留文科大学、東京家政大学附属女子高等学校、独立行政法人日本学術振興会、兵庫教育大学、盛岡大学、早稲田大学、株式会社 創育 等

日本文学研究専攻の特徴

●複数指導体制

約20名の教員が広範な教育研究分野から学生をサポートしています。学生の研究課題に応じた指導体制を築くため、学生1人につき主任指導教員1名、副指導教員2名を定め、多角的な観点からきめ細かい指導を行っています。

●充実した教育研究環境

国文学研究資料館の膨大な資料を活用して研究を行うことができます。また、院生室、講義室、談話室など専攻の学生のための施設が充実しています。

●経済的支援

国内外の現地調査、学会発表・聴講などの研究活動の旅費等の支援やリサーチ・アシスタント(RA)への積極的な雇用など、経済的な支援が充実しており、奨学金などと組み合わせることにより研究に専念することができます。

また、館内での資料複写が無料です(上限あり)。希望する図書の購入と図書室への配架も行っています。

参考データ

職員・予算・施設(2022年度)

職員	(単位：人)
館　　長	1
教　　授	9
准　教　授	13
助　　教	2
特任准教授	2
特 任 助 教	3
事務系職員	46
合　　計	76

予算	(単位：千円)
収入	1,293,501
運営費交付金	1,289,522
自己収入	3,979
支出	1,293,501
教育研究経費	720,370
一般管理費	573,131

施設	(単位：m²)
建物面積　専有面積	13,002
上記の内	
閲覧室	1,584
書庫・収蔵庫	2,416
展示室	355

科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金／科学研究費補助金)(2022年度)

研究種目	応募区分	研究代表者	研　究　課　題　名	研究期間
基盤研究（A）	一般	加藤　聖文	アーカイブズによる「地域力」再生と持続的社会の基盤創成研究	2019～2022
基盤研究（A）	一般	入口　敦志	日本文学及びその関連分野のデータ駆動のためのテキスト形成の総合研究	2022～2026
基盤研究（B）	一般	渡辺　浩一	自然と人間の相互関係史としての近世都市災害研究	2018～2022
基盤研究（B）	一般	海野　圭介	金剛寺摩尼院聖教の調査を基盤とした日本中世の宗教的知の流通と蔵書形成に関する研究	2019～2022
基盤研究（B）	一般	齋藤 真麻理	中近世日本の画題生成における明代出版文化の受容と展開に関する総合的研究	2020～2022
基盤研究（B）	一般	藤實 久美子	維新政権期の木版刊行物に関する学際的研究およびオープンサイエンスの推進	2020～2023
基盤研究（C）	一般	神作　研一	歌書を中心とした江戸時代の絵本と絵入本に関する基礎的研究	2019～2022
基盤研究（C）	一般	武井　協三	『弘前藩庁日記』演劇上演記録の研究―享保期座敷芝居の解明―	2019～2022
基盤研究（C）	一般	山下　則子	鶴屋南北作歌舞伎における近世中期学芸の研究―異分野融合と社会還元を視野に―	2020～2024
基盤研究（C）	一般	木越　俊介	地誌・奇談にみる19世紀型〈知〉の再編と享受	2020～2023
基盤研究（C）	一般	小林　健二	江戸時代前・中期における能狂言を題材とした絵画資料の調査と研究	2020～2023
基盤研究（C）	一般	ダヴァン ディディエ	初期大燈派関連書籍の研究	2021～2023
挑戦的研究（開拓）		青田　寿美	蔵書印データベースの高次利用に向けた情報拡充と篆字学習インターフェイスの開発	2018～2022
挑戦的研究（開拓）		渡辺　浩一	社会転換期における地域アーカイブズ全国調査の検証と新たな方法の開拓	2020～2023
挑戦的研究（萌芽）		相田　　満	『古事類苑』の共有と近代古典学の解析のための基礎的研究	2019～2022
若手研究		山本　嘉孝	木下順庵の漢詩における盛唐詩受容の研究	2018～2022
若手研究		菊池　信彦	スペインにおける出版・読書ナショナリズムのデジタルヒストリー研究	2019～2022
若手研究		多田　蔵人	日本近代文学における江戸文化の受容と表現に関する通史的研究	2019～2022
若手研究		井黒 佳穂子	『玉水物語』にみる種と性の越境	2019～2022
若手研究		粂　　汐里	〈判官物〉の語り物の基礎的研究―幸若舞曲・説経・古浄瑠璃の影響関係の究明	2019～2022
若手研究		ノット ジェフリー	戦国期古典学史の基礎的研究―連歌師の源氏学を中心に―	2021～2025
若手研究		山本　嘉孝	伊藤東涯による漢文制作の総合的研究―江戸後期・明治期日本漢文の原型の解明	2022～2026
研究活動スタート支援		高木 まどか	中近世移行期の買売春に関する研究―医書および日記にみえるSTI(性感染症）から	2020～2022
特別研究員奨励費		上田　哲司	アイヌ史構築のための基礎作業としてのアイヌ人物史的研究　蝦夷地一次幕領期を中心に	2020～2022
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))		神作　研一	在米日本古典籍(リチャードレインコレクション）の調査研究と教育活用に関する研究	2018～2022
国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))		加藤　聖文	日ソ戦争アーカイブズ構築に関する日露共同研究	2018～2022
研究成果公開促進費（学術図書）		岡　　雅彦	江戸時代前期出版年表(万治元年～貞享五年)	2020～2022
研究成果公開促進費（学術図書）		粂　　汐里	中近世語り物文芸の研究―信仰・絵画・地域伝承―	2022
研究成果公開促進費（学術図書）		山本　和明	近世後期江戸小説論攷	2022
研究成果公開促進費(データベース)		海野　圭介	日本古典籍総合目録	2020～2024
研究成果公開促進費(データベース)		山本　和明	新日本古典籍総合データベース	2021～2022
研究成果公開促進費(データベース)		山本　和明	新日本古典籍総合データベース	2022
研究成果公開促進費(データベース)		西村 慎太郎	収蔵歴史アーカイブズデータベース	2022

(2022年4月1日現在)

主要出版物一覧

当館の紹介など

- 国文学研究資料館概要
- 国文研ニューズ（年２回刊）　※WEB版のみ
- ふみ

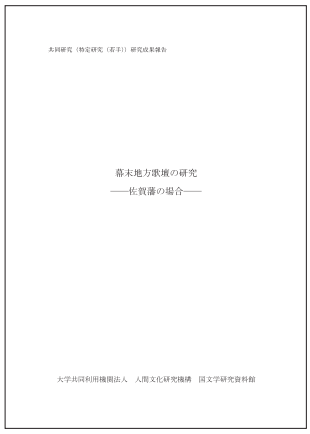
国文研ニューズ

ふみ

研究成果

- 国文学研究資料館紀要　※WEB版のみ
  文学研究篇
  アーカイブズ研究篇
- 共同研究成果報告書

紀要 文学研究篇

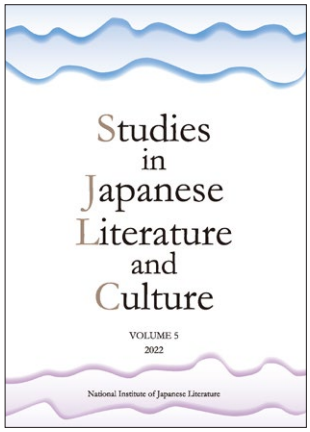


共同研究（特定研究（若手））
研究成果報告
幕末地方歌壇の研究
——佐賀藩の場合——

事業関係

- 調査研究報告　※WEB版のみ
- 史料目録　※WEB版のみ
- 展示図録
- Studies in Japanese Literature and Culture
  ※WEB版のみ

特別展示
「創立50周年記念展示
こくぶんけん〈推し〉の一冊」
図録



Studies in Japanese
Literature and Culture

大学共同利用機関法人
人間文化研究機構

https://www.nihu.jp/

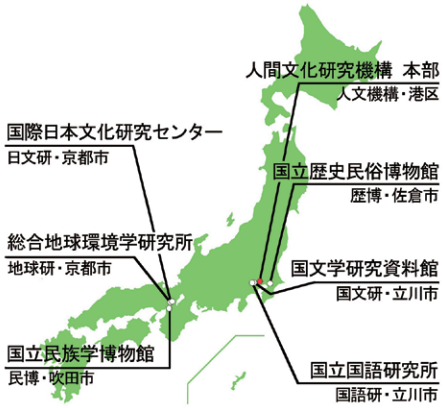
人間文化研究機構とは

人間文化研究機構

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構(略称：人文機構)は、人間文化研究にかかわる6つの大学共同利用機関で構成されています。

それぞれの機関は、人間文化研究の各分野におけるわが国の中核的研究拠点、国際的研究拠点として基盤的研究を深める一方、学問的伝統の枠を超えて相補的に結びつき、国内外の研究機関とも連携して、現代社会における諸課題の解明と解決に挑戦しています。真に豊かな人間生活の実現に向け、人間文化の研究を推進し、新たな価値の創造を目指します。

人文機構本部と6つの大学共同利用機関の所在地



● 大学への貢献

大学院教育

国立大学法人総合研究大学院大学(総研大)の基盤機関として、文化科学研究科に4つの機関が各機関の特色を生かした5つの専攻(博士後期課程)を設置し、高い専門性と広い視野を持った研究者を養成しています。また、人文機構の6つの機関では、他大学の大学院生を受け入れてその研究を支援するなど、次世代を担う人材育成に貢献しています。

総研大文化科学研究科の各専攻

- 地域文化学専攻(民博)
- 比較文化学専攻(民博)
- 国際日本研究専攻(日文研)
- 日本歴史研究専攻(歴博)
- 日本文学研究専攻(国文研)

● 社会への研究成果の還元・社会連携

第39回人文機構シンポジウム

人文知応援フォーラムとの共催事業
第2回人文知応援大会

味の素食の文化センターとの共催シンポジウム
「アフリカから食の豊かさを考える」

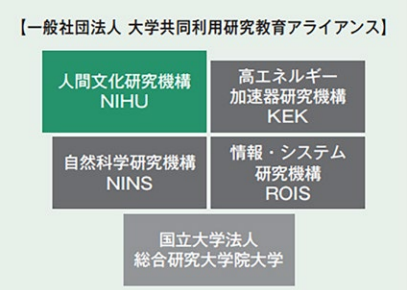
大学共同利用機関法人

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構(略称：人文機構)は、4つの大学共同利用機関法人のうちの1つです。

一般社団法人大学共同利用研究教育アライアンス

4つの大学共同利用機関法人(人間文化研究機構、自然科学研究機構、高エネルギー加速器研究機構、情報・システム研究機構)と国立大学法人総合研究大学院大学は、令和4年3月1日、5法人が社員となる「一般社団法人大学共同利用研究教育アライアンス」を設立しました。

本法人は、5法人が一体的な研究教育活動を通じてその機能を十分に発揮するための事業を推進し、もって我が国の学術研究の発展に寄与することを目的としています。



アライアンスとは…

4つの大学共同利用機関法人（人間文化研究機構、自然科学研究機構、高エネルギー加速器研究機構、情報・システム研究機構）と国立大学法人総合研究大学院大学は、5法人が社員となる「一般社団法人大学共同利用研究教育アライアンス（略称：IU-REAL）」を、令和4（2022）年3月1日に設立しました。

ウェブサイト：https://iu-real.jp

社会との共創により新たな課題解決に導く「人間文化研究創発センター」

機構本部に設置された創発センターでは、【基幹研究プロジェクト】と【共創先導プロジェクト】を推進し、基盤的・学際的研究をコアとして、3つの研究展開(社会との共創・新たな時代に対応したデジタル化の推進・国際連携の推進)を図ります。

基幹研究プロジェクト

機構の根幹をなす人間文化に関する基盤的・学際的研究として、3類型11の研究プロジェクト(下欄参照)を実施し、学術ネットワークの拡大や新分野創出等によって、大学共同利用機関としての使命を果たすための機能強化につなげます。

機関拠点型	大学共同利用機関の教育研究活動の検証結果を踏まえ、各機関のミッションに基づいたさらなる研究分野の深化を図る。	日本歴史文化知の構築と歴史文化オープンサイエンス研究
		データ駆動による課題解決型人文学の創成
		開かれた言語資源による日本語の実証的・応用的研究
		「国際日本研究」コンソーシアムのグローバルな新展開―「国際日本研究」の先導と開拓―
		自然・文化複合による現代文明の再構築と地球環境問題の解決へ向けた実践
		フォーラム型人類文化アーカイブズの構築にもとづく持続発展型人文学研究の推進
広領域連携型	機構内機関が、学際的・超学際的プロジェクトを通じて、有機的に連携して共創研究を推進する。	横断的・融合的地域文化研究の領域展開:新たな社会の創発を目指して(主導機関:歴博・民博)
		人新世に至る、モノを通した自然と人間の相互作用に関する研究(主導機関:地球研)
		異分野融合による総合書物学の拡張的研究(主導機関:国文研)
ネットワーク型	大学等教育研究機関とのネットワークにより、魅力ある研究拠点を形成し、研究フィールドからの課題解決を実現する。	グローバル地域研究推進事業(主導機関:民博)
		歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業(主導機関:歴博)

共創先導プロジェクト

共創促進研究:機構のミッション達成を先導し、機構内外の多様な組織や人びととの共創による機能強化につなげる共同研究(下欄参照)を推進し、3つの研究展開を促進します。

- **[社会共創]** コミュニケーション共生科学の創成(実施機関:国語研、民博)
- **[国際共創]** 日本関連在外資料調査研究
  1) 外交と日本コレクション―19世紀在外日本資料の世界史的文脈による研究と現地およびオンライン空間における活用(実施機関:歴博)
  2) 日本・バチカン関係アーカイブズの情報基盤構築に関する研究(実施機関:国文研)
  3) ハワイにおける日系社会資料に関する資料調査と社会調査の融合的研究(実施機関:国語研)パリ海外宣教師会文書館での調査
- **[デジタル化]** 学術知デジタルライブラリの構築(実施機関:国語研、民博)

パリ海外宣教師会文書館での調査

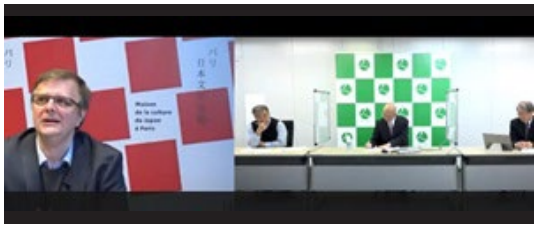
共創促進事業:3つの研究展開を加速化させるための促進事業を実施し、機構内機関及び機構外大学等研究機関の研究の高度化・創発を図ります。

◇**「知の循環促進事業」**:機構の機関と大学等研究機関が連携しつつ、博物館及び展示を活用して人間文化に関する最先端研究を可視化し、学界並びに社会との共創により研究を高度化する研究推進モデルを推進し、人文機構シンポジウム等の広報事業等と合わせて、社会共創を推進する。

◇**「デジタル・ヒューマニティーズ(DH)促進事業」**:さまざまな研究データベースを活用できる環境を創出し、デジタル化を促進して人文学の新たな可能性を切り開く。

◇**「国際連携促進事業」**:新たに、海外の大学等研究機関や著名な研究者(日本研究国際賞受賞者等)との双方向的な国際ネットワーク等を構築し、若手研究者の育成などを通じた研究交流を活性化させる。

若手研究者海外派遣プログラム


パリー東京間　オンラインライブ講演会

人間文化研究情報資源共有化研究会

羅沙窟龜求撰
玉樹軒橘岷江画

交通のご案内

多摩都市モノレール利用の場合
JR立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、高松駅下車、徒歩10分

立川バスの場合
JR立川駅北口2番のりば乗車、「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分
JR立川駅北口1番のりば乗車、「立川市役所」バス停下車、徒歩3分
JR立川駅北口2番のりば乗車、「裁判所前」バス停下車、徒歩5分

徒歩の場合
JR立川駅下車、徒歩約25分

自動車利用の場合
中央自動車道「国立府中IC」から約15分　※無料駐車場あり

大学共同利用機関法人　人間文化研究機構

国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3
TEL: 050-5533-2900
FAX: 042-526-8604
https://www.nijl.ac.jp/

National Institute of Japanese Literature (NIJL)
National Institutes for the Humanities
Address:10-3 Midori-cho, Tachikawa city, TOKYO 190-0014, Japan
TEL:+81-50-5533-2900
FAX:+81-42-526-8604